



平成30年度 水道・下水道事業会計の決算

いつも安全に、安心して利用できる、
災害に強い上下水道を目指して

決算は9月10日から開会の定例市議会にて審議されています。

問い合わせ 上下水道部総務課（市庁舎水道棟2階、☎65・4212）



水道事業会計の決算

おいしい水道水を確実に供給する

収益的収支における収入は44億6745万円（前年度比1・0%減）、支出は37億2662万円（同1・6%減）で、職員給与費の減

少などにより、収益的収支は7億4083万円（同2・6%増）の黒字となりました。今後の借入金返済や、施設の更新などに使用する予定です。

水道施設や水道管を整備する

資本的収支における収入は10億6351万円（同20・4%減）、支

出は30億3480万円（同5・0%増）で、収入の不足は減価償却費※などで補てんしました。

※減価償却費とは、施設が古くなり価値が減った分を費用として換算したもので、収支に反映されま

下水道事業会計の決算

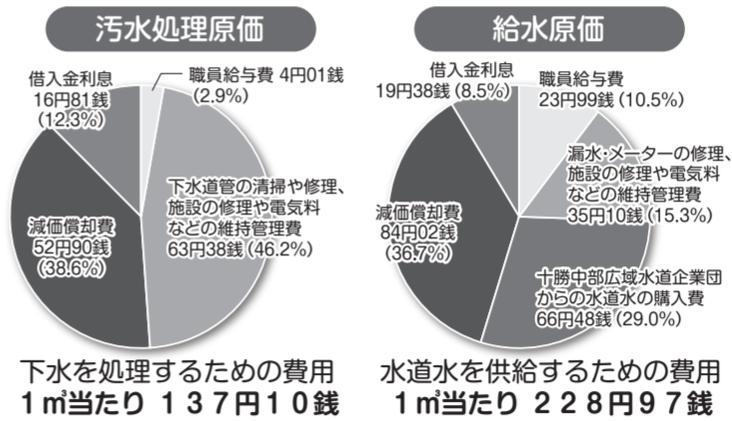
汚れた水を集めてきれいにする

収益的収支における収入は50億7900万円（前年度比0・3%増）、支出は43億9823万円（同1・2%減）で、借入金が減少したことなどにより、収益的収支は6億8077万円（同11・2%増）の黒字となりました。今後の借入金の返済や施設の更新などに使用する予定です。

終末処理場や下水道管を整備する

資本的収支における収入は11億4131万円（同1・6%減）、支出は30億406万円（同4・7%増）で、収入の不足は減価償却費などで補てんしました。

水道・下水道事業 1m当たりの費用の内訳



カラーマンホール



観光PRなどのため、市民アンケートを基に作成。JR帯広駅などに設置。

これからの水道・下水道

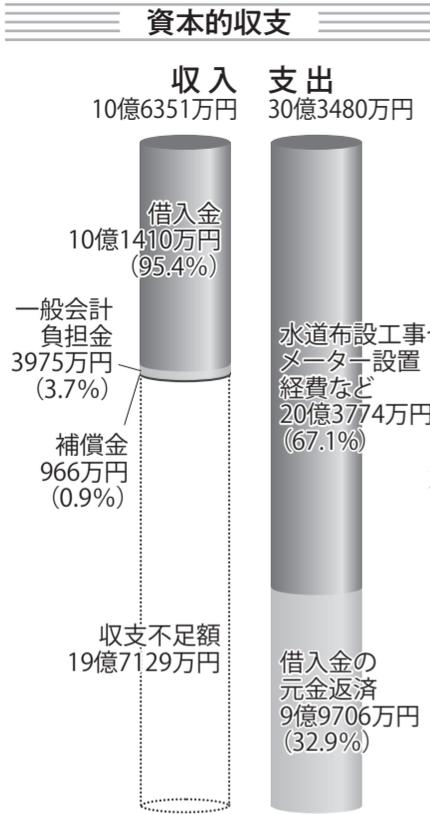
平成30年度の決算は、水道・下水道事業ともに純利益を確保するなど、健全経営を維持できました。しかし、今後は人口が減少し使用量の減少が見込まれる一方、多くの老朽化した施設などの更新が必要となります。健全な企業経営の下、生活に必要な不可欠な上下水道サービスを提供し続けるため、中長期的な視点に立ち計画的な施設などの更新や、災害に強い施設づくりなどを行ってまいります。

水道事業の主な取り組み

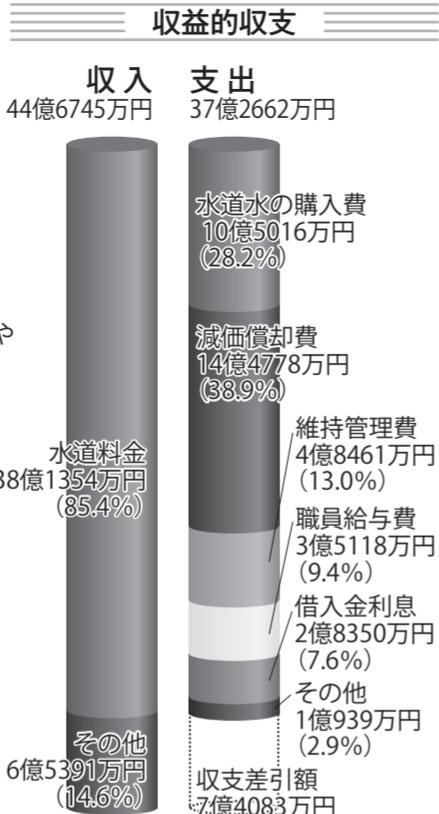


応急給水栓（災害対策備蓄資器材）

水道施設や水道管を整備、更新するための収入と支出

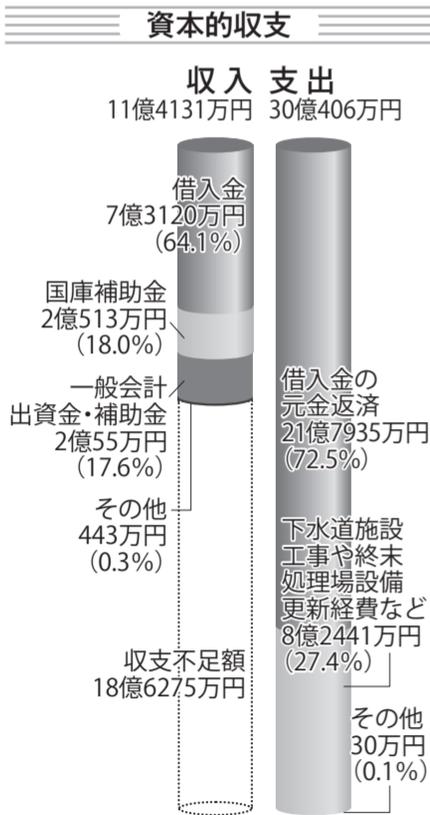


水道水を供給するための収入と支出

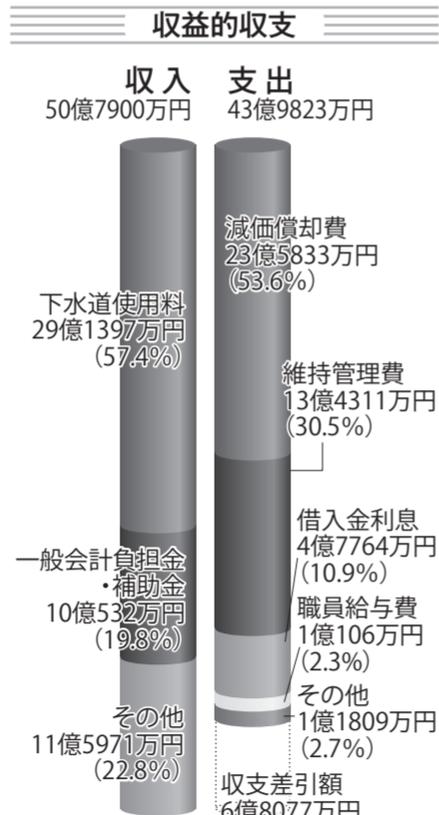


▼新たな水道管の整備や老朽化した水道管の更新▼稲田浄水場の電気計装の更新（平成29〜30年度）・設備機器の更新（平成30〜令和元年度）▼災害などに備えた備蓄資器材の充実—など

終末処理場や下水道管を整備、更新するための収入と支出



汚れた水を集めてきれいにするための収入と支出



下水道事業の主な取り組み



雨水管の整備

▼新たな下水道管の整備や老朽化した下水道管の更新▼帯広川下水終末処理場設備の更新▼災害などに備えた備蓄資器材の充実▼浸水被害があった地域を優先した雨水管整備▼カラーマンホールの蓋製作および中心市街地への設置—など